

# 西光

令和2年7月7日発行

## 第183号

浄土宗西山禅林寺派  
雲龍山 西光寺  
住職 大塚靈閑

〒671-0101  
兵庫県姫路市大塩町229  
Tel 079-254-0351  
Fax 079-254-4142

お盆行事

施餓鬼会のご案内

靈閑だより

陰褒め

気になる・・・

枕経における二つの刀

News

本堂の聯が完成！

8月のお盆参りのご案内

お盆はご先祖のお参りに

## 一般大施餓鬼会

8月16日（日）午前6時～ ※受付は11時まで

上記の時間内でご都合のよい時にお越し下さい。受付順にご回向致します。  
回向料は1霊につき3000円です。塔婆回向のお申込みは、前日までに寺まで  
お申込み下されば幸いです。他所の方は棚経の時にお預かり致します。

永代供養をおあげ頂いている皆様へ

## 永代施餓鬼会

8月7日（金）午前6時～ ※受付は11時まで

永代供養をおあげ頂いている皆様へは別途ハガキにて、永代施餓鬼会のご案内をさせていただきます。  
他所の永代施主家の皆様はこの『西光』にご案内を同封しております。  
尚、お参りにみえない場合でも、住職が代わりに焼香の上、ご回向させていただきます。

### せがきえ 施餓鬼会にお参りの方へ

コロナウィルスの感染拡大が懸念されておりますが、3密（密閉・密集・密接）対策や  
除菌などの感染防止策を十分にとりながら本年度の永代・一般大施餓鬼会を執り行いま  
す。暑い時ではございますが、皆様のお参りをお待ちしております。

また本堂の縁には、例年通り冷茶機（麦茶）を用意しております。熱中症予防のためにも  
ご自由にお飲み下さい。

当日熱のある方、体調がすぐれない方は念のためお参りをお控え頂き、ご自宅で安静に  
お過ごし下さい。お参りをしたいけれどやはり心配だという方には、代わりに住職が焼  
香を承ることもできます。その旨お知らせ下さい。その他気になることがありましたら  
寺または住職までご相談下さい。

# 霊閑だより

## 陰褒め



お釈迦様は私たちが犯す悪い行いを十個に分けて説かれています。そして十個の内、実に四つが口によって生み出される悪なのです。次の四つです。

① 悪口、陰口、中傷、他人を傷つける言葉

② 二枚舌、他人の仲を裂くような言葉

③ うそ、でたらめ

④ 心にもないことをいう、おべんちゃら、口先だけのお世辞

どうでしょう。自身の言動を省みれば、毎日のようにこれらを犯してしまっています。

ある人物が「仕事のできる人は陰口の天才だ」と話していました。その真意は陰で悪口を言うのではなく、陰で褒めるというもの。「あの人はやっぱり頼りになるね、優しい人だね、気が利く奴だな」などその人のいないところで褒めるということなのです。面と向かって褒めることを直褒めじかほというのに対し、陰で褒めるのを陰褒めかげほというのです。面と向かっていいことを言われても嬉しいのは嬉しい

いですが、変に勘ぐってそれこそお世辞かな、心にもないことを思ってしまった。しかし「○○さんがあんたのこと褒めてたよ」と巡り巡って自分の耳に入ってきたらどうでしょう。断然こっちの方が嬉しいものです。なぜでしょう。おそらくそこにはお世辞ではない、その人の心からの気持ちや正直な思いに触れることができるからでしょう。そしてあの人は私のことをよく見てくれている、分かってくれていると思えるからでしょう。

ふと以前の『西光』で紹介しました「ボケずに長生きしなはれや」という歌の一節を思い出しました。

年をとったら 出しゃばらず

憎まれ口に 泣きごとに

人のかげ口 愚痴いわず

他人のことは ほめなはれ

今日も一日のびのびと。どうぞ健やかにお過ごしください。

六月の門前の掲示板に、「思うたことをみな言うな」という言葉を書きました。自分が何気なく、悪気なしに言った言葉で相手を傷つけてしまうということは往々にしてあります。政治家や芸能人の失言、また炎上とってインターネット上で発言した内容に非難が集中する事態など口は災いの元となるようなニュースは日常茶飯事です。

気になる・・・



## 枕経における

### 二つの刀

この『西光』の「気になるシリーズ」では一つ一つどういう意味があるのかを書いていきたいと思います。

今回のテーマは刀です。枕経の場面では二つの刀が出てきます。

#### お剃刀

訃報を受け、まず故人のもとへ赴き、枕元で行うお勤めを枕経といいます。前回の『西光』では、枕経における湯灌について書きました。枕経の場面では、たくさんの「気になる」ことが登場します。亡き人の枕元にするお祀りのことを枕飾りといいます。実際は葬儀会社の方が全て用意してくれますので、「何がいるの?」「どこにおくのか?」「どうやって?」「何個?」「向きは?」など悩む必要がないのですが、せっかくですから

一つは私が持参し、枕経の最中に使うお剃刀です。五重相伝会（最近では昭和六十二年、平成二十三年）という儀式を受けられた方は、お剃刀を既に受けておられます。しかし多くの方には亡くなられてから、枕経の際にお剃刀をいたします。これは没後作僧といって、文字通り亡くなった後に僧侶にすることです。つまり出家するのです。仏の弟子となり、仏の道に進み、後に遺された私たちを導く存在になって頂くのです。お浄

土に往かれた暁には、必ずやこちらの世界に残った者をどうか導いて下さいと願うのです。「天国から私たちのことを守って下さい」という感覚がまさにそれです（仏教では神の天の国⇨天国ではなく、仏様の浄らかな国土⇨お浄土といえます）。ちなみにこの出家して仏の弟子となった証に与えられる名前が所謂戒名です。戒名は亡くなってから使う名前という認識は誤りです。結果的に死後お付けする方が多いのですが、先に書いた五重相伝を生前受けられた方は既にお持ちですし、私のような僧侶は「暁空靈閑」のように日常から戒名を使用します。枕経では俗名でお勤め致しますが、お葬式では戒名でお読みします。これは枕経でお剃刀をし、仏弟子となり、お葬式においてその証に戒名を授けるという手順があります。

## 魔除け？ 守り刀？

さて、もう一つの刀は故人の胸元あたりに（掛布団の上に）置かれています。

納棺後は棺の上に置かれています。一般的には魔除けの刀、守り刀と呼ばれるものです。一つ目の刀は、お剃刀という宗教的な儀式において使用するものでしたが、この二つ目の刀は宗教的というよりは風習の色合いの濃いものようです。この刀を置く理由は諸説ありますが、主なものは次の四つです。

- ① 故人を魔物から守る魔除けとして
- ② 猫除けとして。
- ③ 四十九日間の道中の守り刀として
- ④ 武士の習慣

おそらくどれか一つが正しいとかではなく、皆正解なんだと思います。日本は古

来より、節分の「鬼は外」など邪気払い、魔除けの習慣が多いので①は納得です。

猫は憑き物の類とされ、遺体が荒らされないよう、猫の嫌う光るものとして刀を置いたという②も納得です。

中陰という四十九日の旅路における故人の食料として団子を供えたり、中陰中は（煙の）道が何本もできぬよう線香を一本にし、迷わずあの世へ往けよと願いを込めるのも故人を思つての古来からの習わしでしょう。ですので同じ理由から③も納得です。

武士たるものは自らの身体の一部、魂のようなもので、死ぬまで離さないといえます。また町人や百姓では、名字帯刀を許されたのはごく限られた人たちだ

けで、それは非常に名誉なことであつたともいわれますので、④も納得です。

柳田国男の『葬送習俗事典』には、葬儀に関わる日本全国の様々な風習が紹介されています。まさに所変われば品変わるです。しかしこの故人の上に刀を置く風習は日本全国各地で広く行われているそうです。習俗は正しいとか間違っているものではないので、「へえーそうなんや」というくらいでいいのだと思います。





News

## 本堂の聯れんが完成！

この度、本堂正面の柱に掛ける聯れんが完成いたしました。聯とはお経の文言などを板に刻み、柱などに左右対で掛ける一種の装飾物です。上の写真に「浄土之教叩時機而當行運 念佛之行感水月而得昇降」とあるのがそれです。当初は五月九日の「はなまつりコンサート」で皆様に聯のお披露目をさせて頂く予定でした。しかし、コロナウイルスの感染拡大により、催しを中止とせざるを得ず、残念ながらお披露目の機会が流れてしまいました。

さて、この聯が正面に對で掛かるとなかなかの存在感です。ヒノキの柱とも調和し、のっぺりとしていた空間が一気に格調高く引き締まったような気がします。聯の素材は重厚感がある檜けやきで、漆を何度も塗りこむことで大変木目の美しい仕上がりになっております。

聯の文字は、本山永観堂の現ご法主ほししゆの久我儼昭くがげんしやうげいか殿下ごせんに御染筆びつ賜りました。書かれている文は、浄土宗をお開きになった法然上人の代表作『選択本願念仏集』に出てくることばです。「浄土の教え、時機じきを叩たたいて、行運ぎやううんに当あたれり。念佛ぎやうの行、水月すいげつを感じて昇降しやうこうを得えたり」と読みます。『選択本願念

仏集私講』という先代の著書には「この文は法然浄土教の白眉はくびと云うていい名文で、『選択本願念仏集』はこの一文によって成立しているといつても過言ではない」とあります。というわけで、聯に刻む文字は悩むことなくこの文に致しました。

さて、問題はその意味です。これが詩的で大変難解なのです。お釈迦さまの説かれた浄土の教えというのは、今日の時代と人に適した教えであり、まさに今は念仏が称えられるべき好機といえる。これが右側の文です。ここまではまだ大丈夫です。

問題は左の方です。こんな情景を思い浮かべて頂きたい。夜分に屋外で水を両手で掬すくうと、その両手の中にほわくとお月さんが宿すくっていることに気づき、「ああ綺麗だな」と思う。水が天に昇ったわけでもなく、月が地上に降りたわけでもないのに、月（念仏）と水（我々）が互いに感応かんおうし合っているという状況。自らの手の中の水面に映し出された月を感じ、月という形

で届けられた念仏という真理がほわくと浮き出してくる。何か私と仏とが一体となったような不思議な感覚・・・案の定解説すればするほど難しくなりました。

お月さんの光が届かない場所はありません。誰のもとへも届きます。私たちは普段月の存在など気にも留めないけれども、月は朝も昼も夜も常に出ていて、確かに私たちを照らしてくれています。ご先祖がいつでもしつかりとあなたを見守ってくれていますよという所以はここにあります。

この聯は形的形町の清水賢二郎さん・佐紀子さんご夫妻が施主となってお作り頂きました。昨年暮れに、「何か残るものを」と大変有難いお話を頂きました。そこで、先代が生前中から「うちの寺にも欲しいな」と度々申し出ておりました聯の制作をご提案させて頂いたところ、快諾頂き制作の運びとなりました。最後になりましたが、清水さんご夫妻には改めて心より御礼申し上げます。

< Before >



< After >



## 8月のお盆参り（棚経）のご案内

1日（土） 大阪府内  
2日（日） 加古川・加古郡・明石・神戸（垂水区）  
3日（月） 姫路市内（飾磨・夢前方面）（午後～）  
4日（火） 神戸（垂水区・須磨区・長田区・兵庫区）  
5日（水） 神戸（西区・北区・中央区・灘区）・芦屋・西宮  
6日（木） 姫路市内・太子  
8日（土） 高砂市内・加古川平津  
10日（月） 的形、木場、八家、東山、白浜（7時～）  
12日（水） 大鳥・佐土・御着・国分寺・佐土新（7時～）  
北脇・西浜（午後～）  
13日（木） 大塩町内（東ノ丁・宮本丁）6時～  
14日（金） 大塩町内（中ノ丁・西ノ丁）6時～

※8月の月参り（お逮夜参り）はお休みを頂きます。

### 施餓鬼会への出仕

3日（月） 救鱗寺施餓鬼会  
7日（金） 当山 永代施餓鬼会  
9日（日） 蓮華院施餓鬼会  
11日（火） 西岸寺施餓鬼会  
15日（土） 観音寺施餓鬼会  
16日（日） 当山 一般大施餓鬼会

### 地藏盆

23日（日）8時～  
的形岩鼻・大塩各丁の地藏堂参り

### 【ご逝去の報】

西ノ丁 歌野勝さん 4月17日没 80歳  
東ノ丁 寺浦良男さん 4月26日没 81歳  
東ノ丁 南二三夫さん 4月27日没 82歳  
中ノ丁 澤井幹尋さん 6月28日没 73歳  
木場 木下すゑのさん 7月6日没 93歳

### 【門前掲示板より】

5月 身は死すとも心は死せず  
6月 思うたことを皆言うな  
7月 天気予報 聞きのがしたる 一日は  
雨でも晴れでも 腹が立たない（俵万智）

### 【寺子屋】

9月から再開予定です。詳しい日程は秋の彼岸号でお知らせいたします。

### 【後記】

リモーター。離れた場所から応援する人のことだそうです。コロナウイルスの感染拡大によりプロスポーツの世界も無観客試合を余儀なくされています。懲罰名でもある「無観客試合」に代わる名称の公募を行い、リモートマッチ（ゲーム）と呼ぶことになったそうです。それに伴い、現地で応援するサポーターに対して、現地には行けないけれど、離れた場所から応援する人をリモーターと呼んではどうかということです。物理的に離れて

いても、選手と応援する側をつなげようという思いがそこにはあります。

この度のコロナ下において、リモート法事を行いました。親の法事であるし、願わくば法事の場につきたいけれど、このような状況下でそれが許されないため、スマートフォン越しに法事に参加する。離れていても思いは届けることができる。つながることはできる。まさにリモーターです。